

【3】早岐地区ってこんなまちです

(早岐地区の歴史)

「早岐」という地名は、奈良時代に書かれた『肥前國風土記』に「速来」として現れます。これは佐世保でもっとも古い地名で、早岐瀬戸の潮が速く流れることに由来していると考えられています。

江戸時代には、街道の交差点にあって、港もある早岐は、平戸藩の商業中心地として繁栄しました。家々が密集する今の早岐の町並みは、江戸時代中頃にはできあがっていたようです。

平戸往還の宿場でもあったため、一般の人たちが宿泊する旅籠(旅館)、平戸藩主が泊まる本陣、重臣たちのための脇本陣もありました。

また、海に面した港からは、瀬戸内や関西方面への船が出て三川内焼などが運ばれていたようです。

まち中には、大念寺の山門、平戸往還の石畳、早岐押役所といった由緒ある遺跡もたくさんあります。早岐駅の駅舎も明治30年に開業した当時のままの建物で、明治時代の駅舎建築としては長崎県内に唯一残る貴重なものです。

1889年(明治22年) 東彼杵郡早岐村が誕生する。

1923年(大正12年) 早岐町になる。

1942年(昭和17年) 佐世保市に編入し現在に至る。

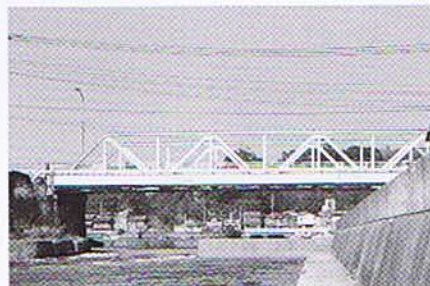
★早岐地区って……どのあたりをいうの？

現在、早岐地区と呼ばれる範囲は下のとおりで、この活動計画においても同じ考え方です。

町名	上原町、勝海町、権常寺町、権常寺一丁目、早苗町、陣の内町、田の浦町、早岐一丁目・二丁目・三丁目、花高一丁目・二丁目・三丁目・四丁目、平松町、若竹台町
----	--



■大念寺山門

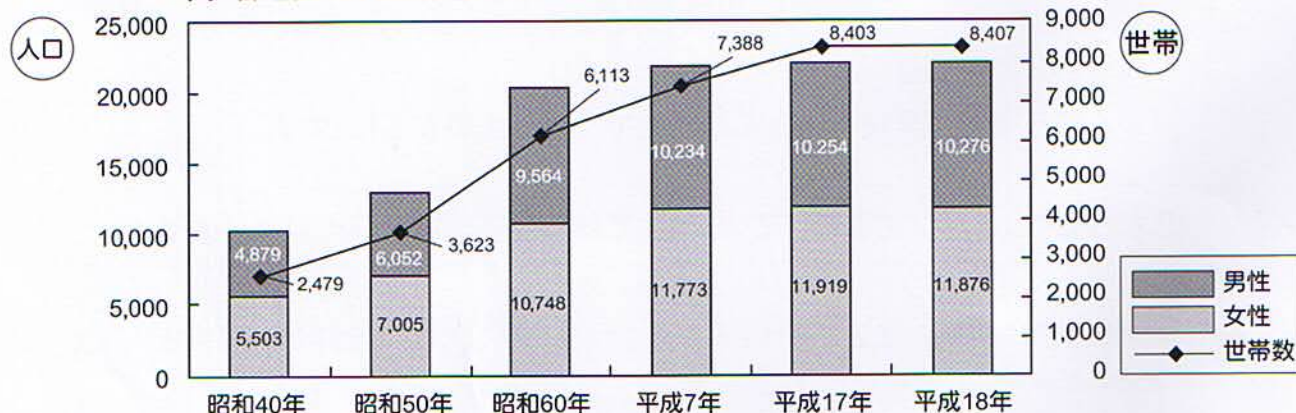


■観潮橋



《佐世保市における早岐の位置》

(早岐地区の人口推移) ※いずれも4月1日時点の統計資料



(早岐地区“わがまち自慢”)

早岐地区には、他の地区にはない“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

◎早岐茶市

400年余の歴史を持つ早岐茶市は、5月の初市、中市、後市、6月には梅市が開催されています。「茶市の風にあたればその年は風邪ひかん」といつの頃からか言われてきました。

期間中は、新茶、海草、魚介類、野菜、陶器類など生活に直結した必需品が早岐瀬戸の海岸に並べられ、「おばちゃん、もう少しまけんね」と値引き交渉の声で賑わっています。

ごく最近までは物々交換が行われており、爽やかな瀬戸風が通り抜ける海岸に「換えまっしょ。換えまっしょ」の掛け声がこだましていました。



◎伝統のある祭り(早岐神社、天満宮、浄漸寺)

早岐地区には、歴史と伝統のある神社や寺が点在しており、代々継承されてきた祭りが、毎年とり行われています。

主なものに早岐神社のおくんち、権常寺・天満宮の千灯籠まつり、上原町・浄漸寺の夏祭り(浮立)があります。



■早岐神社のおくんち

■権常寺・天満宮の千灯籠まつり



■上原町・浄漸寺の夏まつり(浮立)

◎尾崎公園

100年程前、故尾崎保寿さんとそのお父さんが、早苗町の山に毎年少しずつ桜やつつじを植樹し、きれいな花が咲くようにしました。

昭和44年に佐世保市の公園になり、桜とつつじの名所として多くの人が訪れます。



◎早岐よかところ隊

毎年、秋に開催される「よさこいさせぼ祭り」をはじめ、各地の祭りに地元早岐のチームとして参加しています。

2000年の結成以来、400年余の歴史ある『早岐茶市』をテーマに踊り続けています。



◎早岐瀬戸手作りいかだ大会

美しい大村湾にそそぎ込む早岐瀬戸は、急流で有名な場所。早岐瀬戸手作りいかだ大会は夏に開催されます。

各チームが手作りのいかだを持ち込み競い合う、家族や仲間たちで参加できる楽しいイベントです。



いつまでも残したい伝統と文化がいっぱいの魅力溢れるまちです。